

2025 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1 年次/1 年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023 年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/前学期/前学期 : /First term/First term
分類/Category	//工芸科学教養科目 : //Science and Technology Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月 3 : /Mon.3

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10111306			
科目番号 /Course Number	10160136			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	現代京都論 : Urban Issues and Problems in Kyoto			
担当教員名 / Instructor(s)	/(大島 祥子) : OSHIMA Sachiko			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher	○	担当教員は建築事務所を主宰しており、また住まい・まちづくりに関連する複数の NPO の事務局を務める。この経験を活かしてリアルタイムな現代京都の様々な事象を取り上げた授業を行う。	
科目ナンバリング /Numbering Code	B_PS1240			

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	講義では、学び、暮らすまちである「京都」をより深く感じ、考える機会を提供します。京都の現代で起きている事象をテーマごとに考察し、京都の特性と課題を読み解き、未来のまちづくりを考えることを目指します。講義内容は、前半で現代の京都のまちづくりの基盤ともいえる、都市経営や庶民の暮らしやまちとの関わりの変遷（まちづくり史）を学習し、さらにまちづくりの基盤・組織、コミュニティについて学習します。これらをふまえた上で、後半では、テーマごとの事象を読み解きます。行政施策を取り上げるものが多いですが、NPO や民間事業者等が展開する事例、地域で展開される活動なども採用してテーマを深めていきます。京都の「今」を知り、関心を持つことで、京都で学び、研究する糧にして欲しいと思います。
英	毎回、授業の最後に、レポートの書き方等に関する「ワンポイントレッスン」を行います。

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	「現代京都論」を通じて学び、考えるとは	授業の方針と年間の概要を説明。本講義で学習する内容、ストーリーを理解する。
	英		
2	日	京のまちづくり史（１）	平安京から近世まで、京都の都市構造と町衆の行動の変遷を史実に基づくエピソードを通じて学ぶ。
	英		
3	日	京のまちづくり史（２）	近世から近代、そして現代に至るまで、京都の都市構造と町衆の行動の変遷を史実に基づくエピソードを通じて学ぶ。
	英		
4	日	行政施策の特徴 ～景観	京都市の景観行政は全国的にも特徴的であると評されている。特に近年の景観政策について学ぶ。
	英		
5	日	まちづくりの担い手	京都で進められている様々なまちづくり活動から、担い手、主体について学ぶ。
	英		
6	日	京都の都市計画、まちづくり	都市計画、まちづくりとは何か。時代とともに変遷するこれらについて、京都市の取組を通じて理解する。
	英		
7	日	京町家から見る京都の特徴	京都の個性的な景観を形成する京町家と路地。これらの現状と取り巻く課題、継承について考える。
	英		
8	日	ストック活用の可能性－路地に着目して	京都都心部には、数多くの細街路、袋路が存在している。安全性を確保しながら、この歴史的な空間を未来に継承するにはどうすれば良いのか、現在各所で進められている策を学ぶ。
	英		
9	日	市民の足・自転車と交通	市民の足として活用される自転車。環境、健康的な観点から利用が推奨されるものの、路上では様々な課題がある。この課題の本質と解決策を考える。
	英		
10	日	空き家が抱える課題と可能性	社会的な問題となっている空き家。空き家の増加で何が問題となるのか、また京都市内の様々な取組を通じた解決策を学ぶ。
	英		
11	日	観光と交流人口	国内屈指の観光都市である京都の現状を学び、現状の課題と今後の展開について考える。
	英		
12	日	伝統産業とまちづくり	京都の経済を支えてきた様々な産業の現状と課題を学び、新機軸の展開を図る事例を学ぶ。
	英		
13	日	京都の水環境	水とともに発展していた京都の生活と文化。現在の水を取り巻く様々なまちづくりを学ぶ。
	英		
14	日	京都と不動産開発事業	京都で展開されたユニークな不動産開発事業の事例を学び、土地利用とまちづくりの関係を学ぶ。
	英		
15	日	現代の京都から未来の京都へ	現代京都論を振り返り、京都の未来のまちづくりを考える。
	英		

履修条件 Prerequisite(s)	
日	
英	

授業時間外学習（予習・復習等）

Required study time, Preparation and review	
日	より理解を深めたい人のために、各回で参考文献や資料などを紹介する。ただし、時事に関する話を多数引用するので、日頃から新聞を読むことを進める。 ※教材の学習、課題提出、自習等を含め、単位習得に必要な学修時間を確保する計画である。
英	本講義に対しては、67.5 時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books	
日	テキストは特に指定しない。講義内容の理解をさらに深めたい人を対象に、各回で参考図書などを紹介する。
英	

成績評価の方法及び基準 Grading Policy	
日	授業への参加姿勢（毎回配布するフィードバックシートから評価、配点 40％）と期末のレポート（配点 60％）によって評価する。 ただし、期末試験等が実施できない場合は、別途検討する。
英	

留意事項等 Point to consider	
日	建築・都市計画・まちづくりの実務を行う教員が、その経験を生かし、京都の様々な活動や事象に対して解説する。授業では具体的な事例をピックアップ、その背景やそれを支える仕組みを分析・紹介することを通じて、現代京都の理解を深める。
英	